

<サブクエスト②のシナリオ
【NARUTO-ナルト-】>

<窪木 海>

★ひとつのセリフの文字数制限は「26(文字)×2行」

■<A>■

●<木ノ葉隠れの里・住宅区域 午前8時>

道の真ん中を歩いているカカシ。
突然立ち止まり、身体を震わせる。

カカシ「(あと二時間… あと二時間だ
　　いったいどれほどこの時を待ち望んだことか…)」
カカシ「(イチャイチャシリーズ最新作を手にするこの日を…!)」
カカシ「フフ…フフフフ」

カカシ、軽快な足取りで歩いていく。

フリー移動へ。



[フリー移動]

操作キャラクター:<はたけカカシ>

目的表示:<本屋>に向かえ。
<本屋>の近くまで移動すると、次のイベント開始。



■■

●<木ノ葉隠れの里・中央通り>

歩いていたカカシ、突然立ち止まる。

カカシ「ハッ！ この気配ッ…！」

脇道からナルトとサクラがやってくる。

カカシに気づき、駆け寄ってくる。

サクラ「あ！ やっぱりここにいたわ！」

ナルト「おーい！ カカシ先生～」

カカシ「どうしたの こんな朝から二人揃って」

カカシ「(…あまり良い予感はないけど)」

ナルト「あのさ！ あのさ！

先生に実戦の修業に付き合っほしいんだってばよ！」

サクラ「ナルトと色々修業して前より連携も良くなったんですよ！」

真剣な目でカカシを見つめる二人。

カカシ「(こりゃ随分と本気だな… 開店までまだ時間はあるが…

さて どうしたものか)」

腕を組み、考え込むカカシ。

【選択肢発生】

「ま 付き合っやるかな」を選んだら<a1>へ

「悪いがそんな暇はないな」を選んだら<a2>へ

■<a1>■

●<木ノ葉隠れの里・中央通り>

カカシ、やれやれとため息をつく。

カカシ「はいはい わかったよ
ただし一戦だけだからね？」

ナルト、体を乗り出して、喜ぶ。

ナルト「よっしゃー！
それでこそカカシ先生だってばよ！」

ナルト、カカシの腕を引っ張り、走り出す。
困惑した様子で連れて行かれるカカシ。
サクラもついていく。

<C>へ。

■ <a2> ■

● <木ノ葉隠れの里・中央通り>

カカシ「悪いけどね
今日はちょっと大事な用があるから」
サクラ「えー！？ そんなぁ またですか？」

カカシ、二人を無視して、歩き出す。
ナルト、三体に影分身して、カカシの前に立ち塞がる。

ナルト「今日こそは絶対に修業に付き合ってもらうってばよ！」
カカシ「(こりゃ うん と言うまでは
通してくれそうもないな…)」

(「ま 付き合ってやるかな」を選ぶまで同じことの繰り返し)

■<C>■

●<サバイバル演習場>

向かい合っているカカシとナルト、サクラ。

ナルト「へへ ようやく先生との実戦修業だってばよ！」

サクラ「先生！ 本気でお願いしますね！」

カカシ「…ああ そうさせてもらうよ」

バトルへ。

↓

[バトル]

※<カカシ> vs <ナルト&サクラ>

バトルステージ: <サバイバル演習場>

<バトル開始直後>

ナルト「よっしゃー！ いくぞー！！」

カカシ「(今回最優先すべきは本の確保だ
最初から全力で闘い 早めに終わらせる!)」

<バトル終盤:相手のライフが半分以下>

カカシ「もうそろそろ決めさせてもらうよ？」

ナルト「へへ 勝った気になるのはまだ早いってばよ！」

<ピンチ:プレイヤーのライフが半分>

カカシ「くっ …こりゃちょっと喰らいすぎたかな」

サクラ「ナルト！ 今がチャンスよ！」

ナルト「オウッ！」

<戦闘勝利>

カカシ「はい そこまで！ 勝負アリだな」

敗北…<b1>へ。

勝利…<b2>へ。

↓

■<b1>■

●<サバイバル演習場>

向かい合っているカカシとナルト、サクラ。

カカシ「ふう まあ この辺りで潮時といったところかな」

カカシ「どうだ？ こんなもんで満足か？

それじゃあオレはそろそろ……」

ナルト、納得いかない様子で、カカシを指差す。

ナルト「ちょっと待ったー！！

流石に今ので終わりとは言わせねえってばよ！」

サクラ「先生！ だからちゃんと全力でお願いしますよ！？」

カカシ「……はいはい 仕方ないね」

カカシ「もっと本気でやるしかなさそうだね… どーも」

(フリー移動に移行し、再びナルトたちに話しかけるとバトルが発生。

フリー移動時は、他の場所に行くことができない。

バトルを勝利しないと先に進めない)

<他の場所に行こうとすると>

ナルトが四体に影分身して、カカシの前に立ち塞がる。

ナルト「おいおい！ 今回はドロンは無しだってばよ！」

<ナルトたちに再び話しかけると>

ナルト「よし！ 今度こそ本気のカカシ先生が見られるってばよ！」

再びバトルへ。

■<b2>■

●<サバイバル演習場>

向かい合っているカカシとナルト、サクラ。
息切れしている様子のナルトとサクラ。

カカシ「ふう… 想像以上に体力を消費したな…」

カカシ「午前 10 時… もう開店している頃だ…

今から急げばまだ間に合うか…！」

カカシ「ホント強くなったね お前たち

それじゃあオレはこの辺で……」

ナルト「カカシ先生！！」

カカシ「！」

ナルト「本気のカカシ先生はやっぱりスゲーってばよ！

だからもう一戦… オレ達と闘ってくれ！」

ナルト、体を乗り出してくる。

カカシ「あのね？

休業の後ってのはちゃんと休むのも大切だから」

サクラも立ち上がる。

サクラ「先生！ 私からもお願いします！

もう少しで何かが掴めそうなんです！」

カカシ「(なんだか雲行きが怪しいな… …これはマズイぞ)」

ナルト&サクラ「先生！！」

カカシ「…残りは自由時間とする

…じゃあな」

カカシ、ドロンと姿を消してしまう。

ナルト「あ！ また逃げられたってばよ！」
サクラ「もう～！
　　ったく そんなに大切な用だったのかしら？」
ナルト「あ！！」

突然サクラの方に振り向くナルト。

サクラ「ちょっと～ いきなりなんなのよ ナルト？」
ナルト「……サクラちゃん
　　忍者は裏の裏を読むべし だったよな」
サクラ「えっ…
　　それってまさか…！」
ナルト「ああ…！
　　これはきっと…追跡演習なんだったってばよ！」

フリー移動へ。

↓

[フリー移動]

操作キャラクター:<はたけカカシ>

目的表示:<本屋>に向かえ。

<本屋>の近くまで移動すると、次のイベント開始。

↓

■<D>■

●<木ノ葉隠れの里・中央通り>

カカシ、走っている。

カカシ「あと少し… あと少しだ」

カカシ「！！」

カカシ、何かの気配に気づき、慌てて物陰に身を隠す。

カカシ「この気配はまさか……」

ナルトの影分身たちがぞろぞろ通り過ぎていく。

本屋の前はナルトの影分身だらけに。

影分身 A「オレはこの辺を見張るってばよ」

影分身 B「よし！ それじゃオレはあっちだ！」

散らばっていくナルトの影分身たち。

カカシ「(これは参ったな…

遠回りして裏口から入るしかないか……)」

はあ、とため息をつくカカシ。

簡易ミニゲームへ。

↓

[簡易ミニゲーム]

目的表示:「ナルトに見つからずに本屋に辿り着け！」

ゴール地点:<本屋の裏口>

<ミニゲーム開始直後>

カカシ「(あんなところにもナルトの影分身が…！
見つからないようによく注意しないとな)」

<中間地点を通過後>

カカシ「(店まであと少しだ…
さて まだ残っていてくれよ…！)」

<ゴール地点に到着時>

カカシ「はあ… やっと到着だな」

失敗…<c1>へ。

成功…<c2>へ。

↓

■<c1>■

●<木ノ葉隠れの里・中央通り>

(ナルトに見つかってしまうと……)

ナルト「へへ！ カカシ先生見つけ！」

ナルトの影分身たちがカカシを取り囲む。

ナルト「どうだ カカシ先生！ オレってばやるだろ？」

うなだれるカカシ。

画面が一瞬真っ暗に。

画面が元に戻る。

ミニゲーム開始前と同じ場所で、頭を抱えているカカシ。

カカシ「…なんてことにはならないように
よく注意して移動しないとな……)」

ミニゲームの最初から、再スタート。

■<c2>■

●<木ノ葉隠れの里・本屋前>

本屋の裏口が見えている。
息を切らしながら走っているカカシ。

カカシ「！」

店の裏口の前に、オリジナルのナルトとサクラが姿を見せる。
驚き、立ち止まるカカシ。

サクラ「さあ！ ようやく見つけましたよ 先生！！」
ナルト「へへ サクラちゃんの読みが当たったってばよ」
サクラ「それじゃあ… いきますよ 先生！」
ナルト「今度は負けねえってばよ！」

闘ってる様子は映さない。
カカシとナルトたちが闘っている SE だけが聞こえる。

ナルト「へへっ まだまだ！」
サクラ「そこね！！」
カカシ「(ああ……
オレの…イチャイチャが……)」

■<E>■

●<木ノ葉隠れの里・中央通り 正午 12 時>

俯いているカカシ。

対して、笑顔で満足そうな様子のナルトとサクラ。

ナルト「先生！今日はホントありがとだってばよ！」

意気揚々と帰っていくナルトとサクラ。

一人残されたカカシ。

はあ、とため息をつくカカシ。

カカシ「(まさか… こんなことになるとはね…
まあ… 行っただけ行ってみるとするか)」

トボトボと歩いていくカカシ。

■<F>■

●<本屋>

重い足取りのまま、店に入ってくるカカシ。

店主「いらっしやい！」

カカシ「(はあ… ま 流石にこの時間じゃもう……)」

ハッと突然驚き、仰け反るカカシ。

カカシ「…ん？ こ…これは……！」

本と本の合間に隠れた一冊の本の表紙に「イチ」という字が書かれている。

カカシ「『イチ』… 間違いない！
これだっ！！」

カカシ、勢いよくその本を手取る。
本のタイトルは『イチから始める、部下との付き合い方』。
本を持ったまま、その場で固まるカカシ。

カカシ、死んだ目で機械的にぺらぺらとページをめくっている。

カカシ「その一、しつこい部下を言葉巧みに受け流す。
 これも上司に必要なスキル……」
カカシ「……………」

黙って本を見つめるカカシ。

本屋の外観のみが映し出される。

カカシ「…あの一 すみません
 この本ください……」
店主「どうも まいどありー！！」

<了>